

日本からも予想以上の参加者を得、会の仕掛け人の一人として大変感謝している。

さらに、ちょっと意外だったのは、中国側の研究者もこのように大勢集まる機会は、これまでに無かったらしく、その意味でも大変意義のある3日間であったと考えている。

最終日の午後、3時間ほど自由討議の時間をとったが、馬鈴薯は品種と採種問題で時間切れになった。しかし、その間熱心な質疑応答が続けられ、言葉の問題は黒板に書く事で乗り越える等、実に充実した時間がもてた。

発表の技術については、図、表ともにさらに工夫して欲しい点が多かった。特に言葉の問題があるので、図や表で理解できるように努力すべきであると痛切に感じた。その点、日本からの参加者は、かなり洗練された発表がなされたと思っている。

今回は第一回であり、どちらかと言えば

“手さぐり”の状態で行ったので、特に宿舎については不便をかけたし、日本からの参加者の多くが手弁当で参加されるなど、仕掛け人としては大変恐縮している。

しかし、170名以上の参加者を得たことは、この会議が重視された証拠として喜んでいるが、これを機会に両国の技術交流が益々盛んになることを期待したい。

さらに、中国側は4年後に日本での開催を強く希望しており、その希望がかなえられることを祈っている。

〈付記〉今回の中国側の発表は殆ど中国語で行われ、発表時の図、表の整理も不十分だったので、その内容を理解することが困難であった。そのため、本文のうち研究会の部分は配付された論文集をもとに記述した。また、日本からの参加者の報告には触れなかったことを断っておく。



○小さい

北海道の海の幸やジャガイモが食べたくなって来た旅行者がレストランで言った。

「おい、ウェイター。このジャガイモ小さすぎないか」

「ええ、お客さん」

「それにえぐいよ」

「ですから、小さくてよかったんじゃないですか」

○お節介

ジャガイモ大好きなA君が上京して、初めて乞食というものに会った。

「どうかこの哀れな乞食に、飯を買うお金をめぐんで下さい」

「飯よりもジャガイモを食べなさい。いろんなビタミンが豊富でヘルシー。カロリーは半分だよ」

○男爵が母？

農試職員「これは『キタアカリ』と言って、ビタミンAやCが豊富な品種で、母親は有名な『男爵』です」

見学者「母が『男爵』ですって？『メークイン（五月女王）』の間違いでしょう」

注）『メークイン』と『男爵薯』の子供ができないかと、よく聞かれますが、どちらも雄性不稔で、通常の交配は期待できない。

〈浅間和夫〉